KSKS ちいろばだより No.250



## 『2023年、年頭に平和を祈る』

ちいろば会理事 木ノ脇悦郎

と思ったら、一夜明けて正月早々にまたミサイル騒ぎでした。世界は、昨年からロシアのウクライナへの侵略行為 をはじめとしてあちこちで、季いや戦乱が絶えることなく平和がどんどん遠くへ去っていくような思いにさせられてい ます。そして、日本の政府もそのような現実の世界情勢に対応するためと言って、軍備を増強し敵が攻撃しそうだ と分かった時点で相手を攻撃することができるようにしようとしています。それは、相手がどこの国であれ戦争を 仕掛ける前に、日本を攻撃することはやめておこうと思わせるためだというのです。あいつ強そうだから喧嘩するの はよしておこう、と、考える子供の喧嘩の理屈と間じです。「国同士の関係はそんなに単純ではありません。むしろ まいて、こうど、ぐんび、せんじゅつ、ていい 相手が高度な軍備や戦術を手に入れれば、それよりも強い力を持つための軍備をしようとして、軍備を拡張す る競争がどんどん激しくなっていくことは火を見るよりも朝らかですし、前の世界大戦ですでに証明されたことで はないでしょうか。ですから、戦争後世界の国々が集まって二度とそのようなことが起こらないように国連の組織と がんが、かた、せいり、 でとしてきたのでした。ところが、その組織の中心になった国の一つであるロシア(旧ソ連)が、一方的 に隣国のウクライナに戦争を仕掛け、国土を奪い始め一般の市民を殺害し、冬になると暖房用の電気を使えなくす るために、発電所を狙ってミサイル攻撃を強めていったのです。ひどい話です。ウクライナの人々は当然のこととし て、自分たちの国土と国民を守るために防御のための戦いをします。世界の国々はひどい攻撃を受けているウク ライナを接助していこうとする陣営と、ロシアに理解を示す国々に分かれて対立する構図となっています。

このような世界の構図の中で、私たちの国はどうしようとしているのでしょうか。世界の平和を維持していくために セヒピ 何ができるか、どうすべきかを考えているのでしょうか。そうであれば、先に述べたような軍備優先の考え方が出 てくるでしょうか。私たちの国の未来がどうなっていくか大切なことですから、一人一人がしっかりと考えて、行動 することが求められているのではないでしょうか。私は、前の戦争を幼児期に体験した世代ですが、今の日本では せんそう。 じぶん 戦争を自分のこととして体験した人の数が減り、戦争の悲惨さを実感することが少なくなっているようです。戦争っ ていやですよ。家族はバラバラにされてしまいますし、食べるものがなくお腹がすきますし、病気になっても、薬も手 に入らないし、荷より毎日不安と恐怖の中で暮らさなければなりません。そんな体験は二度としたくありませんし、 

いやというほど戦争の悲惨さを体験し、最新の兵器であった原爆の被害を受けた私たちの国の正しいあり方は、 平和の 尊さを世界の人々に伝え続け、平和をもたらす為の 働きを続けていくことだと思うのです。「平和を実現す る人々は幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」。前回も引用した聖書の言葉です。

## 

ちいろば会事務 長 和田 泰子

2022年は任事と字替てを満立するうえで、時間随にも気持ち随にも条格がなくなり、荷度となく でが折れそうになる一年になりました。こんなことを言うと、任事と字替てを満立している人たち に「あなただけじゃない」と言われるかもしれません。

それでも、任事も字賛でも手を扱くことなく莞鼜にやりたいと憩いながらも、首分の小学生時代とは穣委わりしている学校教育の在り芳に戸惑い、小学2年生になった。現の家庭学習に尚き各う時間の確保や、学習準備の確認等、時間が定りなさ過ぎとモヤモヤすることが多くありました。そんなモヤモヤした気持ちを字どもに向けてしまい、「あれもできない、これもダメ」「荷が分からないの?」と問い詰めたり、二学期終業式の首には茂蠶衰を学校に隠れてくる。現に対して、叱るのではなくただ懲情をぶつけてしまい、まるで八つ当たりしているかのような首分に落ち込む事もありました。

そんな母親でも、酸は時間があると「ママ、いつもお仕事頑張ってくれてありがとう。これからも 類張ってね。」と手紙を書いてくれます。その度に母親の顔色を窺いながら生活し、首が合うと笑顔を 向けてくれる酸の健気な姿に申し説ない気持ちになり、荷とか気持ちを切り替える努力をしてきまし た。そんな音々を過ごす節で、父の顔色を窺い空気を読むことだけは長けていると思っていた酸のこ ころの成長を学きく懲じる出来事がありました。

しかし、我が国の政権はそんな予どもたちの未来に借金を残してまで防衛力の援挙的強化を進めるための必要な内容を確保するため、防衛費の相当な増額を提唱しています。これらはミサイルの開発や戦得、弾薬の確保にお盗をつぎ込んで、戦争がなくなるようにと願う予どもたちの気持ちとは受する方尚に進もうとしているのです。なぜこのような国党に深く関係する決定事項が国会の議論を尽くされないまま閣議決定のみで決断を下されるのか理解できません。このような国の進め芳に写首分が

出来る事は、自分には関係ないと見過ごすのではなく、 字どもたちに明るい未来と希望、そして空和憲法を特 るために声を上げていくことだと思います。そして何 よりもころの成長を親として等り続けたいと 決意する年始となりました。

#### ょっしょう ともに、健康に



まんしょくいん たまの こうじろう ちいろば園職員 下野 康二郎

この原稿を書いている数日後には 48歳になります。樹が他界した ない。母が生きた年齢と同じ歳になろうとしています。 幸いなことに、今まで大きな病気も怪我もなくここまでこれています。

健康な身体を授かったことに感謝するばかりです。それでも近頃では、健康 維持の為になにをすべきで、なにをするべきでないか、食べもの、睡眠時間、運動は適切だろうかと、健康について、考える時間が増えてきました。

ちいろば園には甲年期(45歳以上)の利用者さんが、12人いらっしゃいます。建物、利用者さんの健康管理の必要性、重要性が増してきていると思います。多くの芳が、体調が悪くても自覚症・状を訴えることが難しかったり、伝えることが困難だったりします。なので我々支援者は利用者さんの変化にいち草く気付かないといけない立場にあります。歩く姿勢はいつもと一緒だろうか、食事の量に変化がないだろうか、普段と比べて表情や疲労度合に違いがないだろうか等々、気を付けなければいけない事柄が多数あります。その為に、日々の観察を欠かすことができません。支援者は医者ではないので病気を治すことはできませんが、異変を早期発覚し、医療機関と連携し治療に繋げる役割を担っています。

一方で、生活習慣病の予防も大きな課題です。運動する、塩分や糖分を控える、ストレスが 溜まっている時は、休息を取り、リフレッシュする。こういった事柄をどのような方法で利用 者さんに伝え、理解、実行して質けるのか。とても難しいことです。なので、産業活動時には 適度な運動が得られるよう工夫したり、意図的にリラックスできる時間帯を設けたり、ストレス を感じないような環境を作ったりすることが重要なのではないかと考えています。

生活習慣は白々の生活で身に付いていくものです。 や発館に入ってから鷺に変えようと思っても、容易なことではないのではないでしょうか。 例えば食事の時、強嚼の凹数が少なく、いわゆる草食いの利用者さんに今白から「浜山噛んで食べましょう」と言っても簡単には受け入れられないはずです。 ちいろば園には、変化を受け入れることが得意ではないという障害特性(同一性保持)を持つ利用者さんが少なくはないです。 青年期、程程期から適切な生活習慣に慎れて賃くよう、時間をかけて支援することが大切なのではないかと思います。

私も、利用者さんともども、健康的に歳を重ねていけたらいいと願っています。その為にも 支援者としてのスキルと知識をもっともっと磨いていく必要があります。

### 「共育を実現する会」―世界の流れへの逆行を許さない― 集会報告

ちいろばだより 249号巻鼠文「合理的配慮はみんなの中で・・」に記したように能養、文部科学者から発出された通知を受けて、今後、関内の学校教育の現場で「障害の有無による『分離教育』が推進されるのではないか」との危機感から、奈良県「障害者」運動ネットワーク、ピープルファースト奈良、奈良関障害者差別をなくす案例推進委員会の共催で能幹11月19日に「共育を実現する会」を開催しました。まず、文部科学者からの通知内容とその背景にある現状について、社会福祉法人ひまわりの渡辺哲気さんから報告いただき、続いて DPI日本会議副議長 尾正浩二さんからは、「国運勧告の内容と我が国の課題について」と題して、幹幹8月に実施された障害者権利案約に関する国運審者の結果、国運障害者委員会から日本政府に出された勧告内容について詳細な解説をしていただき、ご自身の経験も交えて「共に撃ぶ」ことが入所施設のない社会にも繋がっていくことをお話しいただきました。インクルーシブ教育研究所所長の騒響晴さんからは、「すべての子どもたちにインクルーシブ教育を」と題したメッセージを送っていただきました。

その後、教育現場で教賞として、「箕に撃ぶ」教育を実践してこられた2名の芳からの報告と会場からの意見受換を行い、「箕に撃ぶ」ことの重要性を参加者室賞で確認しました。箕瓷決議として奈良県教育委員会と奈良県に対して、今後の特別支援教育に関しての公開質問状を提出することを決議して 業会を閉じました。

#### 以下は公開質問状の内容とその问答の一部抜粋です。

質問1. 現在、特別支援学級に入る。 の総授業時間数の三分の一以下の児童生徒については、次年度以降、特別支援学級を退級することを求めるような指導や通知が奈良県教育委員会から常町科教育委員会へ行われることはありませんか。

#### 回答: ・・・・・

算教育委員会では、この通知を受け、特前科教育委員会の特別支援教育担当者を参加対象とした協議会や小・哲学校等の管理職を対象とした研修会において、障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じて適切な指導が行われるように、通知の趣旨等について説明を行いました。

※公開質簡択とそれに対する奈良県と原教育委員会からの茴含の全文は、ちいろば会ホームページ (トップページ)からご覧いただけます。 URL/https://www.chiiroba.or.jp

### 「ともに生きるとは」

ちいろば園職員 新宮 由士

昨年11月開催された「共育を実現する会」では、昨年4月に文科省から発出された「特別支援 学級及び通級による指導の適切な運用について(通知)」の語し合いが行われました。この通知の内容 は「支援学級に入るができない。」というものです。今回の会合では障害をもつ当事者、教育関係者、福祉関係者など様 である方が参加しました。

私は、障害者福祉に獲わり、共生社会とは、障害をもつ人が地域で当たり請に生活することとはどういうことなのか、たくさんのことを夢ばせていただきました。その中の一つに「原学級保障」というものがあります。障害のある児童とない児童が共に通常学級で夢ぶ続合教育のことです。障害をもつ児童と関わることででてくる問題がたくさんあることが想像できます。その中で質いを認め合い共に生きていく術を夢ぶ場になったと聞いています。実際その教育現場に立たれていた方やご家族から色んなエピソードを聞きました。 童いすの N ちゃんが運動会に参加できるように子どもたちが色々繁をだして一緒に参加できたこと、卒業後も一緒に買い物へ行ったり成人式へ誘ったりなど心による話から「教室でうんこした~」「喧嘩になった」など様々なトラブルも多くあったと聞きました。ただ、それも答め質いの違いを認め合い「箕に生きる」を実現してきたのだと感じます。一日の単分も一緒にいない関係では、このようなエピソードは卓まれなかったのではないでしょうか?
「本来支援が必要な児童に対して支援学級を退級して通常学級へ転入する際十分な合理的配慮がなされるのでしょうか?疑問が残ります。

「共育を実現する会」では、参加者から様々なエピソードや意見を聞きました。参加者の多くが 支料省から発出された「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について(通知)」につい て危惧していることは、この通知により、障害をもつ児童と障害がない児童が分離され「ともに学 ぶ」教育環境が後退するのではないかということです。我が国のインクルーシブ教育の解釈を見 です必要性を感じます。

ちいろば会では、この何年か人権問題、差別問題を中心に研修が行われてきました。沖縄の差別 もいる、からくもかだい ざいにちょうきかじかもかだい 問題、部落問題、在日朝鮮人問題、そして現在、性の多様性について勉強しています。そのどれもが

共通していることは、人は自分とは違う物、よく理解できないことに対して不安を感じたり、偏覚をもってみてしまうということです。 障害をもつ人との関わりの経験が少なくなると障害者への偏覚や 差別がより助長することになるのではないかと感じてしまいます。 教育の場が「共に生き、共に育つ」場であることを切に祈ります。



### グループホーム利用者とのコミュニケーションについて

グループホーム職員 岩﨑真滋

利用者さんとのコミュニケーションで、心を強い合うためにどのようなことが必要なのか。「コミュニケーション」とは、ラテン語でコミュニカーレ「分かち合い」という意味だそうです。「人間が意志や感情など積重に莅え合うことです。いろいろな手段を使って、気持ち、一巻え、一般にたことなどを相手に伝え「表し出」、相手から受け取って理解している「愛容」。「私は、会話や言葉の抑揚、「表情の変化を見たり、自を見たりジェスチャーをしたり、文字にしたり、絵カード・絵を描いて視覚化など様々な方法があると思いますが、それぞれ利用者さんに合った方法を心がけています。利用者さんに伝わるように話し、利用者さんの気持ちを汲み取り、悩みを聞いたり、窓ったり窓られたり、窓しい事をで考えたり、不安を和らげ、否定的な言葉を使わず共同生活の支援をしています。2020年からコロナの影響で目常に様々な制限があります。特に、貧事の時は感染対策のためコミュニケーションがとりづらく利用者さんの団らんの場として機能させることが難しい部分があります。できるだけ各部屋で過ごしていただくなど、みんなで感染学院をしながらの共同生活を送っています。利用者さんのお誕生日会やクリスマス会などは、制限がある節でも楽しく開催しています。

管常的な父と父とのつながりは、コミュニケーションの累積と言われています。信賴関係を くこでもコミュニケーションは大切です。自分の思い込みをなくし、まず、ありのままの利 開者さんを受容し、歴史や生活背景を知ることでその父の思いに寄り添った支援ができるので はと思っています。しかし、悩むときもあります。 伝えたいことが伝わなければ私も利用者 さんも孤独感を感じて不安になります。対話の中でうまく、気を汲み取ることができれば一緒 に解決策も見つけることができます。 本来、コミュニケーションは、「する」ものではなく複数 、がいるだけで自然に「ある」ものだと捉える、

ということだそうですが、まだまだ、私には コミュニケーションをとる上で私なりの創意 「大が必要と感じています。

一芳醇なものではなく利用者さんから発せられたサインや発信をしっかりキャッチし共有して、 言葉や心のキャッチボールをして人間関係を築いていきたいです。



# ぼくも わたしも みんなが主役

質問① 名前と年齢は?

質問② 家族にまつわるエピソードは?

じつもん がっこう しゅうろうじ たい 質問③ 学校、就労時代のエピソードは?

最近気になっていること、興味があることは?

- (1) 栗山典子、40歳です。
- ② グループホーム「すみれ荘」の仲間と生活しています。 ゕ 買ってきてくれます。服は 妹 が買ってきてくれます。 姪っ子が出来て、始めはとまどいましたが、今では会うたびに 色んな表情を見せてくれるので楽しみです。
- ・ まんごうしょうがっこう さんごうちゅうがっこう ならょう ここうとうがっこう かぇ しょうがっこう げんがっきゅう ねんかんす ③ 三郷小学校、三郷中学校、奈良養護高等学校に通いました。小学校は原学級で6年間過 ごし、登下校は先生がしてくれました。友達もたくさん出来ました。養護学校では出来なか った経験がたくさん出来たと思います。小学校、中学校と地元の学校に車いすで通い、 ニラニラ~ょラ゙ニがラニラ 高校は養護学校でした。高校はスクールバスで通うことになり今までと違い大変でした。
- ④ 出来る限り、季節ごとに色んな場所に出かけたいです。
- ① 松村敏康です。38歳です。
- ② 平日はグループホーム「日之出荘」で暮らしています。 っき すうかいかぇ ちち す 月に数回帰って父と過ごしています。 お母さんは 20年前に 亡くなりました。今でも悲しいです。 ピセピセ゚ ひのでモラ かぇ ォネ 時々、日之出荘に帰る前にコンビニに行ってお菓子を買います。 お気に入りのお菓子はポイフルとラムネです。日之出荘では、もうちょっと夜遅くまで起きて
- テレビを観たいなと思うことがあります。
- いかるがにししょうがっこう いかるがちゅうがっこう ならけんりつこうとうょうこがっこう かよ ③ 斑鳩西小学校、斑鳩中学校、奈良県立高等養護学校に通っていました。中学校は園芸部で やさいづく けいけん まん いま こうこう 野菜作りの経験が、ちいろば園で今やっている園芸グループの活動でも役立っています。高校 の時、一番楽しかったのはパソコンクラブでした。ゲームで絵を描いたりすることが好きでし た。
- ④ テレビで「プリキュア」を頼ることが好きです。プリキュアグッズを集めるのが好きだからも。 っと欲しいです。 今後はコロナがおさまったら、 たくさんお出かけしたいです。 電車で奈良駅 ょうかん。 まで行って、うどんを食べて、ならまちにある「音声館」で音楽や紙芝居を楽しみたいです。

☆浸えが、 ☆後接会費・ちいろばだより年間購読料(2022年10月1日~2022年11月30日) ご協力ありがとうございました。

篠原範子、井戸上聰、松藤みどり、松本敬子、卜田啓三・昭子、藤澤信弘・ゆき子、藤澤信也 以上が称は略させていただきます



チェンバロ:河野 まり子さん

オーボエ:河野 下孝さん

ヴァイオリン:高森 真貴子さん

による演奏。

師走の忙しなさを忘れられるような

<sup>ここち</sup> 心地よいひと時が、ちいろば園に帰ってきました。

## 原材料費高騰に伴う商品価格改定のお知らせ

いつもカフェドンキー、MAGARIno ドンキーをご利用いただき、ありがとうございます。 このたび、2023年2月1日より、満端の値上げを実施することになりましたので、お知らせ 致します。

能学より原材料費の
高騰が続きましたが、
当店ではしばらく
価格を据え
着いて
勢りました。

しかし、関重なる高騰が続き、値上げせざるを得ない状況となりました。

お客様にはご負担をおかけすることになりますが、

衛拳ご理解いただき今後ともよろしくお願い鞍します。

しゃかいふくしほうじん 社会福祉法人ちいろば会

# KSKS ちいろばだより

編集人/ ちいろば会後援会

年6回 頒価 50円

連絡先/ 奈良県生駒郡三郷町勢野北5-6-14

TEL: 0745-72-1923 FAX: 0745-72-1924

発行人/ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F